

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果・分析と課題

東久留米市立久留米中学校 校長 木下信久

令和6年4月18日に3年生を対象に全国学力・学習状況調査が実施されました。国語・数学の2教科に加え生徒質問について結果分析を行い、課題を明らかにした上で授業改善をはじめとした学校運営を行ってまいります。

1 学力調査結果

	国語		数学	
	平均正答数(問)	平均正答率(%)	平均正答数(問)	平均正答率(%)
久留米中学校	8.6/15	57.0	7.5/16	47.0
東京都(公立)	9.1/15	61.0	9.1/16	57.0
全国(公立)	8.7/15	58.1	8.4/16	52.5

本校の国語の平均正答率は、全国比-1.1ポイント、東京都比-4ポイントでした。数学の平均正答率は、全国比-5.5ポイント、東京都比-10ポイントでした。

東久留米市立中学校の国語の平均正答率は60.0%、数学の平均正答率は53.0%であったため、国語・数学ともに本市の平均正答率も下回る結果となりました。

2 国語の観点別結果・分析と課題(授業改善に向けて)

評価の観点	平均正答率(%)		
	本校	東京都(公立)	全国(公立)
知識・技能	61.8	64.4	62.0
思考・判断・表現	53.8	58.6	55.4

全15問中、3問は国都を上回る回答率、加えて3問は国を上回る回答率となりましたが、知識・技能、思考・判断・表現を総じて国都を下回る回答率となりました。

問題の概要	正答率(%)			無回答率(%)		
	本校	東京都	全国	本校	東京都	全国
本文に書かれていることを理解するために着目する内容を決めて要約する	38.0	48.2	42.6	8.5	7.4	8.4
表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	42.6	52.1	49.3	15.5	12.7	15.0

思考力・判断力・表現力の確認する3問の記述式問題のうち2問(着目する内容を決めて要約する、工夫した表現の効果を説明する)において都の平均正答率から約10ポイント前後下回る結果となり、合わせてこの2問は無回答率も高くなりました。目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、自分の考えが伝わる文章になるよう表現の効果を考えて描写したりするなどの力をつけなければなりません。この課題を改善するために、授業(単元及び本時)のねらいを明確にして提示するだけでなく、「何を学習するのか」「何ができるようになるのか」等の達成目標も押さえ、生徒にも十分に理解させた上で授業に臨むことが欠かせません。教師は授業中に形成的評価*1を日常的に行い、学習課題を個別に指示し、学習の進展を図ることが大切だと捉えています。

*1:教師が生徒の学習の成立状態(観察、質問、簡易テスト等)を確認、把握すること

【具体的な授業改善策及び目標値】

・全ての教材において基本となる「読むこと」において、漢字や文法事項をワークや学習プリント等を用いて丁寧に学習をすすめ、習熟度を定期テストで確認します。その際、上記分野の正答率を60%にすることを目指します。

・自分の考えを言葉にすることに関しては、授業ノートの記述欄を活用し、記述式の問題に取り組みさせることで改善させていきます。定期テストの記述分野の正答率を60%にすることを目指します。

<生徒質問紙より>

質問事項		1	2	肯定計	3	4	否定計
国語の勉強は好きですか	本校	14.0	39.5	53.5	33.3	13.2	46.5
	東京都(公立)	24.5	39.3	63.8	25.0	10.9	35.9
	全国(公立)	24.4	39.9	64.3	25.2	10.3	35.5
国語の授業の内容はよく分かりますか	本校	20.9	56.6	77.5	14.7	7.8	22.5
	東京都(公立)	32.7	49.9	82.6	13.6	3.2	16.8
	全国(公立)	32.0	50.7	82.7	13.6	3.0	16.6

共に国都に比べて肯定的な回答が低い状況になりました。国語の授業を通してできるようになったことを生徒が実感でき、分かりやすい授業になるよう努めてまいります。

3 数学の観点別結果・分析と課題(授業改善に向けて)

評価の観点	平均正答率(%)		
	本校	東京都(公立)	全国(公立)
知識・技能	57.9	67.3	63.1
思考・判断・表現	21.7	34.2	29.3

全16問中、1問は国都を上回る回答率、加えて1問は国を上回る回答率となりましたが、知識・技能、思考・判断・表現を総じて国都を下回る回答率となりました。

問題の概要	正答率(%)			無回答率(%)		
	本校	東京都	全国	本校	東京都	全国
正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予測できることを説明する	32.6	46.2	41.8	46.5	26.4	29.6

思考力・判断力・表現力を確認する5問の記述式問題のうち4問(数と式に関する説明、データ活用に関わる説明、関数の式やグラフを説明)において都の平均正答率から約11から15ポイント下回っており、合わせて本4問については無回答率も高くなりました。目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったり、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりすることなど、授業(単元及び本時)のねらいを明確にして提示するだけでなく、「何を学習するのか」「何ができるようになるのか」等の達成目標も押さえ、生徒にも十分に理解させた上で授業に臨むことが欠かせません。また、話し合い活動等の形態を取り入れるなど、自分の考えを表現する活動を意図的に取り入れることにより表現力を高める授業を展開することも必要です。さらには、基礎・基本が定着していない生徒に対する具体的な支援を行うことが必要であると捉えております。

【具体的な改善策及び目標値】

- ・定期考査や確認テストでは、都立高校の入試問題の傾向に合わせて1・2年生の復習問題を出題していますが、正答率が60%程度に留まっているため、朝学習等での復習の機会を増やし、80%の正答率を目指します。
- ・定期考査においても無回答(空欄)率が高いので、普段の授業から思考力を養うために考えさせる授業を実施していきます。3学期以降に行う予定の入試対策の類似問題では、記述式の問題の記入率が60%以上になるように粘り強く取り組む姿勢を高めていきます。

<生徒質問紙より>

質問事項		1	2	肯定計	3	4	否定計
数学の勉強は好きですか	本校	30.2	34.1	64.3	20.9	14.7	35.6
	東京都(公立)	30.4	28.3	58.7	23.6	17.5	41.1
	全国(公立)	29.4	27.8	57.2	24.7	17.8	32.5
数学の授業の内容はよく分かりますか	本校	40.3	45.7	86.0	9.3	4.7	14.0
	東京都(公立)	34.8	42.0	76.8	16.4	6.2	22.6
	全国(公立)	35.1	40.6	75.7	17.2	6.6	13.8

共に国都に比べて肯定的な回答が高い状況になりました。数学の勉強が嫌いという生徒を更に減らすことができるよう、分かりやすい授業になり達成感が感じられるよう努めてまいります。

4 生徒質問結果・分析と課題(65項目中14項目)

*100%に満たない場合は無回答有

質問事項		1	2	肯定計	3	4	否定計
学校に行くのは楽しいと思えますか	本校	34.9	50.4	85.3	11.6	3.1	14.7
	東京都(公立)	42.6	40.4	83.0	11.2	5.2	16.4
	全国(公立)	43.5	40.3	83.8	10.8	4.7	15.5
友達関係に満足していますか	本校	41.9	39.5	81.4	15.5	3.1	18.6
	東京都(公立)	53.0	36.5	89.5	7.4	2.4	9.8
	全国(公立)	55.0	35.1	90.1	7.2	2.1	9.3
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか	本校	24.0	47.3	71.3	20.9	7.8	28.7
	東京都(公立)	31.7	44.2	75.9	18.3	5.0	23.3
	全国(公立)	30.3	45.9	76.2	18.7	4.5	23.2
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	本校	65.1	30.2	95.3	3.9	0.8	4.7
	東京都(公立)	74.3	20.4	94.7	3.5	1.2	4.7
	全国(公立)	77.5	18.2	95.7	2.9	0.9	3.8
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	本校	22.5	41.1	63.6	19.4	17.1	36.5
	東京都(公立)	29.2	37.9	67.1	21.5	10.8	32.3
	全国(公立)	28.7	38.8	67.5	21.9	10.2	32.1

1:当てはまる 2:どちらかといえば、当てはまる 3:どちらかといえば、当てはまらない 4:当てはまらない

「学校に行くのは楽しいか」の問いに対する肯定的な回答は85.3ポイントであり国都を上回っているものの、「当てはまる」と回答できる生徒を増やすことができるように学校生活全般を通じて達成感や満足感を味わわせていく必要があります。また、否定的に捉えている生徒も「学校が楽しい」と思えるように、特別活動を要しつつ、学校生活や各教科等の授業についても常に見直しをする視点をもつことが大切であると捉えております。

友達関係については、否定的な回答が国都を上回る状況であり、学校生活において、居場所づくりやきずなづくりの視点で意図的かつ計画的に仕掛けを打ち、友達関係をはぐくんでいきたい。また、自分と違う意見について考えることにより思考の幅が広がることや、どんな理由があってもいじめは絶対いけないと思えるように生徒と生徒、生徒と教師の対話を重視した活動を取り入れる必要があります。さらには、困りごとや不安がある時に学校にいる大人に相談できるよう、教師と生徒との信頼関係を育むことも欠かせないと捉えております。

<タブレット型端末の活用について> *100%に満たない場合は無回答有

質問事項		1	2	3	4	5
1、2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか	本校	9.3	41.1	35.7	10.1	3.9
	東京都(公立)	30.9	37.2	23.2	5.9	2.4
	全国(公立)	31.0	33.4	24.6	7.8	2.8

1:ほぼ毎日 2:週3回以上 3:週1回以上 4:月1回以上 5:月1回未満

生徒が捉える令和4年度、5年度のタブレット型端末の活用状況としては、国都を大きく下回る状況でした。タブレット型端末は、特別な教具・道具ではなく、日常の文具として適切に活用できるよう、発想の転換をすることが教師に求められています。デジタルの活用場面を増やし、トライアンドエラーを繰り返すことを通じて、一人1台端末の日常化につなげることが急務であると捉えています。

1、2年生の時の学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。 *100%に満たない場合は無回答有

質問事項		1	2	肯定計	3	4	否定計
自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	本校	17.0	52.7	69.7	23.3	7.0	30.3
	東京都(公立)	27.4	51.0	78.4	17.0	4.0	21.0
	全国(公立)	28.7	51.5	80.2	16.0	3.3	19.3
楽しみながら学習を進めることができる	本校	25.6	45.7	71.3	20.2	7.0	27.2
	東京都(公立)	34.7	44.3	79.0	15.7	4.5	20.2
	全国(公立)	39.1	43.3	82.4	13.4	3.4	16.8
画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	本校	27.1	56.6	83.7	13.2	3.1	16.3
	東京都(公立)	40.6	47.1	87.7	8.8	2.6	11.4
	全国(公立)	42.9	46.1	89.0	8.2	2.0	10.2

自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	本校	17.1	57.4	74.5	20.9	4.7	25.6
	東京都(公立)	29.5	47.4	76.9	17.6	4.3	21.9
	全国(公立)	30.1	47.6	77.7	17.6	3.7	21.3
友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	本校	18.6	55.8	74.4	20.2	5.4	25.6
	東京都(公立)	38.9	46.0	84.9	10.8	3.2	14.0
	全国(公立)	41.0	45.2	86.2	10.3	2.7	13.0

1:とてもそう思う 2:そう思う 3:あまり思わない 4:そう思わない

令和4年度、5年度においてはタブレット型端末を積極的に活用した授業があまり展開されなかったため、タブレット端末ならではの機能も効果的に活用されず、有意な点について生徒が肯定的に捉えることができない状況となりました。各教科の授業に留まらず、学年・学級での活動、特別活動等においても生徒が主体的にタブレット型端末を活用する場面を増やすことが必須であると考えています。

*100%に満たない場合は無回答有

質問事項		1	2	肯定計	3	4	否定計
学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	本校	15.5	55.8	71.3	20.9	6.2	27.1
	東京都(公立)	27.4	51.1	78.5	17.2	3.3	20.5
	全国(公立)	27.1	50.8	77.9	18.0	3.2	21.2
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか	本校	16.3	60.5	76.8	15.5	7.8	23.3
	東京都(公立)	27.8	51.7	79.5	15.8	3.6	19.5
	全国(公立)	27.5	51.5	79.0	16.5	3.4	19.9
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	本校	25.6	58.9	84.5	12.4	3.1	15.5
	東京都(公立)	43.3	48.1	91.4	5.9	1.6	7.5
	全国(公立)	46.1	46.2	92.3	5.4	1.4	6.8

1:当てはまる 2:どちらかといえば、当てはまる 3:どちらかといえば、当てはまらない 4:当てはまらない

<まとめ>

本報告書に取り上げた質問事項のみにとらわれず、本調査の各質問事項の意図について理解し、数値を分析し、改善点を見だし、組織的な改善を試みることを一連の流れとする事の日常化に努めてまいります。